



At the heart of the image



3635万画素の圧倒的な画力を引き出すおすすめレンズ

D810 × NIKKOR vol.2

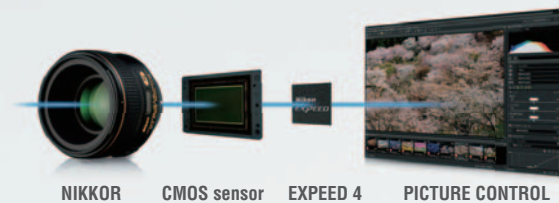


ニコン史上最高画質 D810と 高性能 NIKKORレンズの組み合わせが 写真表現の可能性を大きく切り拓く。

3635万画素という中判デジタルカメラに匹敵する高画質を撮影フィールドに手軽に持ち出す。D810が実現したのは、どのような撮影フィールド、撮影ジャンルでも今までよりも高画質を手に入れることができるということです。驚異的に広いダイナミックレンジ、進化したノイズ制御技術、極限にまで高めたAF精度、約5コマ/秒の連続撮影などによって、あなたの写真表現を期待以上の領域に引き上げます。

D810の高画質を支える4つの先進テクノロジー。

高い解像感や鮮鋭感だけではなく、撮影者の意図を盛り込みやすい画づくりを実現するために、D810では「NIKKORレンズ」「新開発CMOSセンサー」「新画像処理エンジン EXPEED 4」「ピクチャーコントロールシステム」の4つのテクノロジーが連携して、最高画質が生み出されています。D810の解像感を最大限楽しむために、ニコンの光学技術の粋を結集したNIKKORレンズは光を撮像センサーに導く重要なエレメントです。



最新の光学設計による高い解像力、豊かな階調表現力。

理想的な光学特性を求めて、NIKKORレンズは進化してきました。デジタル一眼レフカメラの高画素化に伴って、レンズにもますますシビアな性能が求められています。最新の光学設計技術、加工技術、新しい光学要素を駆使して生み出される新しいNIKKORレンズは、表現の可能性を大きく広げ、高い信頼と最高の評価を得ています。

D810の最高画質を愉しむための NIKKORレンズ。

3635万画素という圧倒的な解像力を誇るD810。その高い解像力や豊かな階調表現、優れた色再現性は、D810の持つポテンシャルにふさわしい描写性能を持つNIKKORレンズと組み合わせられることによってフルに発揮されます。その中でも、特にD810の最高画質を引き出すレンズをご紹介します。今回、9名のフォトグラファーがD810の性能をフルに引き出すべく、作品撮影に挑みました。D810のレンズ選びのご参考にいただければ幸いです。

D810の解像感を愉しむおすすめレンズ例 (2015年8月現在)		作品掲載ページ
ズームレンズ	AF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G ED	06・08
	AF-S NIKKOR 16-35mm f/4G ED VR	10
	AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VR	12・14・16
	AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED	
	AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR	18
	AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR II	20
	AF-S NIKKOR 70-200mm f/4G ED VR	22
	AF-S NIKKOR 80-400mm f/4.5-5.6G ED VR	24
	AF-S NIKKOR 200-400mm f/4G ED VR II	
	AF-S NIKKOR 20mm f/1.8G ED	
単焦点レンズ	AF-S NIKKOR 24mm f/1.4G ED	26
	AF-S NIKKOR 24mm f/1.8G ED	28
	AF-S NIKKOR 28mm f/1.8G	30
	AF-S NIKKOR 35mm f/1.4G	32
	AF-S NIKKOR 35mm f/1.8G ED	
	AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G	34
	AF-S NIKKOR 85mm f/1.4G	36
	AF-S NIKKOR 85mm f/1.8G	38
	AI AF DC-Nikkor 105mm f/2D	
	AI AF DC-Nikkor 135mm f/2D	
PC-Eレンズ	AF-S NIKKOR 200mm f/2G ED VR II	
	AF-S NIKKOR 300mm f/2.8G ED VR II	40
	AF-S NIKKOR 300mm f/4E PF ED VR	
	AF-S NIKKOR 400mm f/2.8E FL ED VR	
マイクロレンズ	AF-S NIKKOR 500mm f/4E FL ED VR	
	AF-S NIKKOR 600mm f/4E FL ED VR	
	AF-S NIKKOR 800mm f/5.6E FL ED VR	42
	PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D ED	44
マイクロレンズ	PC-E Micro NIKKOR 45mm f/2.8D ED	
	PC-E Micro NIKKOR 85mm f/2.8D	
	AF-S Micro NIKKOR 60mm f/2.8G ED	46
	AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-ED	48

おすすめレンズ例のうち、作品の掲載がないものもあります。

3635万画素の鮮鋭感をフルに引き出す 撮影テクニックとD810の新機能。



カメラの高画素化が進んで被写体の細部の緻密な描写が可能になるほど、ブレやピンぼけの影響も出やすくなります。3635万画素のD810と高い解像力を備えたNIKKORレンズの組み合わせによる鮮鋭感あふれる画像を楽しむために、すぐに使える撮影テクニックやD810の新機能をご紹介します。

カメラブレ対策は、しっかりした三脚の使用から。

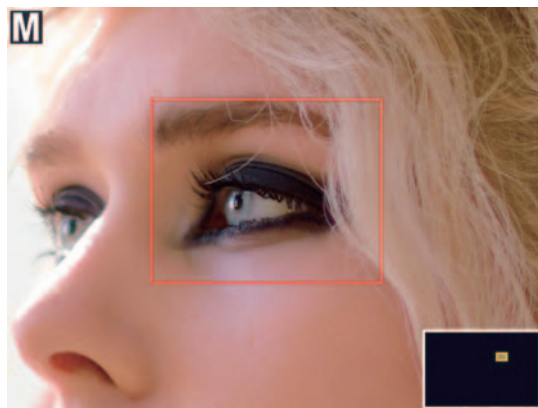
静止画の撮影には、三脚を使ってブレを極力抑えましょう。三脚はなるべくしっかりしたものを使用し、脚やエレベーターは必要以上に伸ばさないようにします。雲台も、安定性を高めるには大きめのほうが有利。また、レンズのVR(手ブレ補正)機構に三脚使用時のためのTRIPODモードがある場合、シャッタースピードが1/15~1秒で特に効果的にブレを抑えることができます。動きのある被写体や撮影場所を迅速に移動しながら撮る際は、一脚も便利です。



■ レンズのTRIPODモードを選択

ライブビューを活用して、より精密にピント合わせ。

風景写真や接写などの動かない被写体を撮影する場合は、Lvボタンを押して静止画ライブビューモードに切り替え。カメラ背面の液晶モニターの大きな画面で、精密なピント合わせができます。ライブビュー時は、液晶モニターに表示される画面すべてにフォーカスポイントを移動させることができ、さらに最大23倍までの拡大表示も可能。静止画ライブビュー中に露出プレビュー画面に切り替えれば、実際の仕上がりがイメージを確認することができます。



■ ライブビューの拡大表示



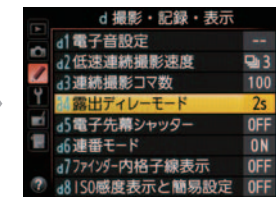
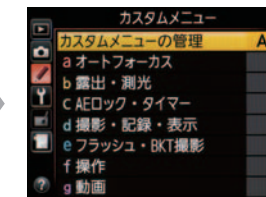
■ Lvボタン

カメラの機構ブレを抑えるミラーアップと露出ディレイ。

通常ファインダー撮影でもミラーアップしてシャッターボタンを押せば、撮影時に跳ね上がるミラーの反動によるブレを抑えることができます。さらに露出ディレイモードなら、シャッターボタンを押してから1~3秒たつて、ボタンを押した瞬間の微小な振動が収まってからシャッターが切れるようにすることができます。



■ MENUボタン



新搭載の電子先幕シャッターで 機構ブレを極限まで抑制。

D810でミラーアップ撮影をする場合、撮像素子が先幕の役割を果たす電子先幕シャッターに切り替えることができます。メカニカル先幕シャッターの走行による機構ブレが発生しないため、高いブレ防止効果を発揮。あらかじめミラーアップするライブビュー撮影と組み合わせで撮影することもできます。



カメラ内部の振動にまで配慮した 駆動機構と優れたミラーバルンサー。

カメラ内部のミラーやシャッターの動作によって発生するわずかな機構ブレも抑えるために、D810ではモーターによる駆動機構やミラーバルンサーを新設計。また、静音撮影および静音連続撮影モードでは、ミラーとシャッターユニットを低速動作させて、カメラの内部振動をさらに低減しています。



■ 駆動機構



■ ミラーバルンサー
ミラーの作動や停止に伴って発生する振動や音を大幅に低減。



AF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G ED

開放F値が2.8で一定の、描写力に優れた大口径ズームレンズ

■レンズ構成:11群14枚 ■最短撮影距離:0.28m(18-24mm時) ■最大撮影倍率:0.14倍 ■質量:約970g ■サイズ:約98mm(最大径)×131.5mm ■フード 固定(鏡筒と一体)/ケース CL-M3(付属)

滝の裏側から見てちょうど逆光となる夕方の時間帯を狙って、しぶきを全身に浴びることを覚悟で撮影に臨んだ。黒い滝壺の岩肌から輝く太陽までという、カメラ泣かせの激しいコントラストの中、高画質を誇るD810とAF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G EDの組み合わせは、激しい白トビや黒潰れもせず、滑らかなグラデーションで、しかも逆光に輝く水しぶきの一粒一粒を完全に、そしてシャープに表現してくれた。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:絞り優先オート、1/50秒、f/13、+0.3補正
○ホワイトバランス:晴天 ○ISO感度:64 ○ピクチャーコントロール:ピピッド

撮影/解説 高砂 淳二



AF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G ED

開放F値が2.8で一定の、描写力に優れた大口径ズームレンズ

■レンズ構成:11群14枚 ■最短撮影距離:0.28m(18-24mm時) ■最大撮影倍率:0.14倍 ■質量:約970g ■サイズ:約98mm(最大径)×131.5mm ■フード 固定(鏡筒と一体)／ケース CL-M3(付属)

沈みゆく太陽を真正面に見据えるポジションに陣取ること、力強い光に輝く十和田湖の湖面を、ダイナミックに表現した。有効画素数3635万画素を誇る、ローパスフィルターレス仕様のCMOSセンサーから繰り出される繊細な描写は、自然風景の持つ緻密さを余すところなく再現してくれる。AF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G EDとの組み合わせによる圧倒的な解像感の高さ、そして豊かな階調なくしては、この十和田湖畔の夕景を描写することはできなかったろう。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:絞り優先オート、1/100秒、f/11、+0.7補正
○ホワイトバランス:晴天 ○ISO感度:64 ○ピクチャーコントロール:風景

撮影／解説 萩原 俊哉



AF-S NIKKOR 16-35mm f/4G ED VR

解像の素晴らしさとVRが魅力の超広角ズームレンズ

■レンズ構成:12群17枚 ■最短撮影距離:0.28m(20-28mm時) ■最大撮影倍率:0.24倍 ■質量:約680g ■サイズ:約82.5mm(最大径)×125mm ■フード HB-23<花形>(付属) / ケース CL-1120(付属)

D810を携えてフランスアルプスの山岳リゾートであるシャモニー・モンブランを取材した。この作品は、モンブランとシャモニー針峰群の好展望台として知られるラック・ブランに登って手持ちで撮影したもの。あいにく雲の多い天候だったが、16mmという超広角域を使用することで手前のお花畑からシャモニー針峰群とグランドジョラスの上空に広がる雲まで鮮鋭に大きく写り込んで、アルプスらしい雄大な印象となった。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:マニュアル、1/250秒、f/10 ○ホワイトバランス:曇天
○ISO感度:200 ○ピクチャーコントロール:スタンダード

撮影/解説 菊池 哲男



AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VR

VR機構を搭載し、NIKKOR初のED非球面レンズを採用した高性能大口径標準ズームレンズ

■レンズ構成:16群20枚 ■最短撮影距離:0.38m(35-50mm時)、0.41m(24、28、70mm時) ■最大撮影倍率:0.28倍 ■質量:約1070g ■サイズ:約88mm(最大径)×154.5mm ■フード HB-74<花形・ロック機構付>(付属)/ケース CL-M3(付属)

窓から差し込む光は逆光のもの。そんなフレアをナノクリスタルコートが見事に抑えて、モデルの表情をクリアに表現してくれた。場所を問わずポートレート撮影では一番使用頻度の高い画角のこのレンズは、室内でも自由な絵作りを楽しめる。モデルの微妙な動きに合わせて変化するフレーミングを、手ブレ補正機構は強力にサポートしてくれた。手持ち撮影の多いこのジャンルではメリットも大きく、とても心強い。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:マニュアル、1/80秒、f/3.5 ○ホワイトバランス:4170K
○ISO感度:320 ○ピクチャーコントロール:ポートレート

撮影/解説 河野 英喜



AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VR

VR機構を搭載し、NIKKOR初のED非球面レンズを採用した高性能大口径標準ズームレンズ

■レンズ構成:16群20枚 ■最短撮影距離:0.38m(35-50mm時)、0.41m(24、28、70mm時) ■最大撮影倍率:0.28倍 ■質量:約1070g ■サイズ:約88mm(最大径)×154.5mm ■フード HB-74<花形・ロック機構付>(付属)／ケース CL-M3(付属)

暮れ行く海辺の静かな表情をスローシャッターで狙った。D810は、低感度はISO64からさらに1段階下げることができるので、これまであまりスローシャッターを切れなかった明るめの条件でも、難なくスローにして被写体をブラすことができるようになった。しかも、新しく登場したAF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VRは、ヌケが非常にいい上に隅々まで最高画質を保っているのので、D810搭載の電子先幕シャッターとの組み合わせでさらに高画質な作品を作ることが可能となった。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:絞り優先オート、4秒、f/16、-1.0補正 ○ホワイトバランス:晴天
○ISO感度:Lo 1 ○ピクチャーコントロール:ピビッド

撮影／解説 高砂 淳二



AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VR

VR機構を搭載し、NIKKOR初のED非球面レンズを採用した高性能大口径標準ズームレンズ

■レンズ構成:16群20枚 ■最短撮影距離:0.38m(35-50mm時)、0.41m(24、28、70mm時) ■最大撮影倍率:0.28倍 ■質量:約1070g ■サイズ:約88mm(最大径)×154.5mm ■フード HB-74<花形・ロック機構付>(付属)／ケース CL-M3(付属)

大分県由布川渓谷。深い谷に降りて、太陽が真上にあがり、光が差し込むまで3時間待った。その瞬間、黒い岩肌がキラキラと輝き、美しい曲線を描き出す。ズームリングを回しながら、ライブビューに映し出された滝の流れに見とれてしまう。思い描いた色調になるように色温度を4760Kに設定し、さらにホワイトバランスを微調整してG1.00を加えた。シャッター速度を遅くするためにf/11に絞ると、シャッターは2秒になった。滑らかな階調、シャープな描写は想像を超えた世界だ。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:絞り優先オート、2秒、f/11、-0.5補正 ○ホワイトバランス:4760K
○ISO感度:200 ○ピクチャーコントロール:ピビッド

撮影/解説 三好和義



AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR

高い光学性能とコンパクトさを両立するf/4固定の標準ズームレンズ

■レンズ構成:13群17枚 ■最短撮影距離:0.45m ■最大撮影倍率:0.23倍 ■質量:約710g ■サイズ:約84mm(最大径)×103.5mm ■フード HB-53(付属)/ケース CL-1218(付属)

D810はD800Eに比べてグリップが深くなり、手持ち撮影にも強くなった。そこで国際山岳ガイドの長岡健一氏とそのクライアントをモデルに、同じ山岳ガイドの黒田誠氏に撮影サポートをお願いして、イタリア側にある名峰 ダン・デュ・ジュアン^①の登攀をD810で撮影することにした。この時期のアルプスは夜10時ごろが日の入り。前進基地となるトリノ小屋で夕食後、ベランダに出ると天を突くようなダン・デュ・ジュアンが残照に染まり、美しかった。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:マニュアル、1/500秒、f/7.1 ○ホワイトバランス:晴天日陰
○ISO感度:200 ○ピクチャーコントロール:スタンダード

撮影/解説 菊池 哲男



AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR II

プロフェッショナルの信頼に応える鮮明な望遠ズームレンズ

■レンズ構成:16群21枚 ■最短撮影距離:1.4m ■最大撮影倍率:0.11倍 ■質量:約1540g(三脚座含む)、約1460g(三脚座なし) ■サイズ:約87mm(最大径)×205.5mm ■フード HB-48<花形・ロック機構付>(付属)/ケース CL-M2(付属)

曇天は木々の色をしっとり色濃くみせている。ピクチャーコントロールは「フラット」を選択。木陰のモデルと対岸の風景を重ね、露出はモデルの顔を基準に合わせた。輝度差で背景をより明るく表現するのが狙いだ。200mmの画角が表現するやわらかいボケから生まれる色彩は素晴らしく、ポートレート撮影には欠かせない。フォーカスは迷うことなくシャープにモデルを捉え、凛としたモデルの表情を優しく見つめるようにシャッターを切ることができた。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:マニュアル、1/80秒、f/3.2 ○ホワイトバランス:4550K
○ISO感度:400 ○ピクチャーコントロール:フラット

撮影/解説 河野 英喜



AF-S NIKKOR 70-200mm f/4G ED VR

撮影領域を大きく広げるコンパクトなf/4固定の望遠ズームレンズ

■レンズ構成:14群20枚 ■最短撮影距離:1.0m ■最大撮影倍率:0.27倍 ■質量:約850g ■サイズ:約78mm(最大径)×178.5mm ■フード HB-60(付属)/ケース CL-1225(付属)/三脚座リング RT-1(別売)

初秋の頃、秋田県太平湖へ向かう道中にて撮影。日の出とともに湧き上がった雲海が、朝の光に色づきながら膨れ上がる。山並みの合間を行き来する雲海の動きは予想以上に早かったが、AF-S NIKKOR 70-200mm f/4G ED VRはコンパクトで機動性に秀でているため、腕力のない女性の私でも素早く対応できた。また、描写力も素晴らしく、黒濃れしがちな針葉樹林のディテールや遠景にたなびく雲海の濃淡まで、繊細に描き出している。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:絞り優先オート、1/25秒、f/11 ○ホワイトバランス:晴天
○ISO感度:100 ○ピクチャーコントロール:スタンダード

撮影/解説 星野 佑佳



AF-S NIKKOR 80-400mm f/4.5-5.6G ED VR

望遠から超望遠までをカバーする、VR付き5倍望遠ズームレンズ

■レンズ構成:12群20枚 ■最短撮影距離:AF時1.75m、MF時1.5m ■最大撮影倍率:AF時0.17倍、MF時0.19倍 ■質量:約1570g(三脚座を含む)、約1480g(三脚座なし) ■サイズ:約95.5mm(最大径)×203mm ■フード HB-65<花形>(付属)/ケース CL-M2(付属)

富山地方鉄道立山線の終点に近い、山深い場所に足を運んだ。広い焦点距離をカバーしてくれる高倍率ズームレンズは、時として撮影ポイントが限られる鉄道写真には、とても便利。D810とAF-S NIKKOR 80-400mm f/4.5-5.6G ED VRの組み合わせが、鮮鋭な描写力をいかに発揮してくれる。深緑の隙間から顔をのぞかせた黄色い車体の鮮やかさに加えて、樹々の輪郭が葉の一枚に至るまで鮮鋭に美しく再現されていることに感動を覚えた。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:マニュアル、1/400秒、f/7.1
○ホワイトバランス:晴天 ○ISO感度:800 ○ピクチャーコントロール:ピビッド

撮影/解説 助川康史



AF-S NIKKOR 24mm f/1.4G ED

大きく美しいボケ味も楽しめる、明るい大口径広角レンズ

■レンズ構成:10群12枚 ■最短撮影距離:0.25m ■最大撮影倍率:0.18倍 ■質量:約620g ■サイズ:約83mm(最大径)×88.5mm ■フード HB-51<花形>(付属)/ケース CL-1118(付属)

熊本県の御輿来(おこしき)海岸で、大潮の干潮時刻と日没が重なる日に撮影。上空には雲がなく、眩しすぎるほどの夕陽が干潟に映りこんでいる。通常、太陽などの強い光源を画面に入れるとゴーストなどのマイナス要素が生じがちだが、フレアに影響されにくいナノクリスタルコートAF-S NIKKOR 24mm f/1.4G EDを使うことで、躊躇なく太陽を画面に組み込めた。またピクチャーコントロールの明瞭度を上げ、肉眼では霞んで見えにくかった雲仙普賢岳も描写することができた。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:絞り優先オート、1/200秒、f/11 ○ホワイトバランス:晴天
○ISO感度:100 ○ピクチャーコントロール:風景

撮影/解説 星野 佑佳



AF-S NIKKOR 24mm f/1.8G ED

小型・軽量・高画質を実現した、気軽に楽しめる大口径広角レンズ

■レンズ構成:9群12枚 ■最短撮影距離:0.23m ■最大撮影倍率:0.20倍 ■質量:約355g ■サイズ:約77.5mm(最大径)×83mm ■フード HB-76<花形>(付属)/ケース CL-1015(付属)

自然光で撮影するポートレートでは、シャドウ部の表現がとても重要なので、ピクチャーコントロールはフラットを選択。そのおかげで、モデルの緊張感や背景描写を狙いどおりに表現することができた。24mmレンズは画角の特性から使用頻度こそ低いですが、ポートレート撮影でバリエーションの求められるロケ撮影では、欠かせない画角でもある。新設計のこのレンズは素直でクリアな描写で、開放絞りもf/1.8と明るい。奥行きもボケで表現できるなど、単焦点レンズの魅力にあふれた1本だ。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:マニュアル、1/160秒、f/2.5 ○ホワイトバランス:5000K
○ISO感度:800 ○ピクチャーコントロール:フラット

撮影/解説 河野英喜



AF-S NIKKOR 28mm f/1.8G

スナップ撮影に最適な画角のコンパクトな大口径広角レンズ

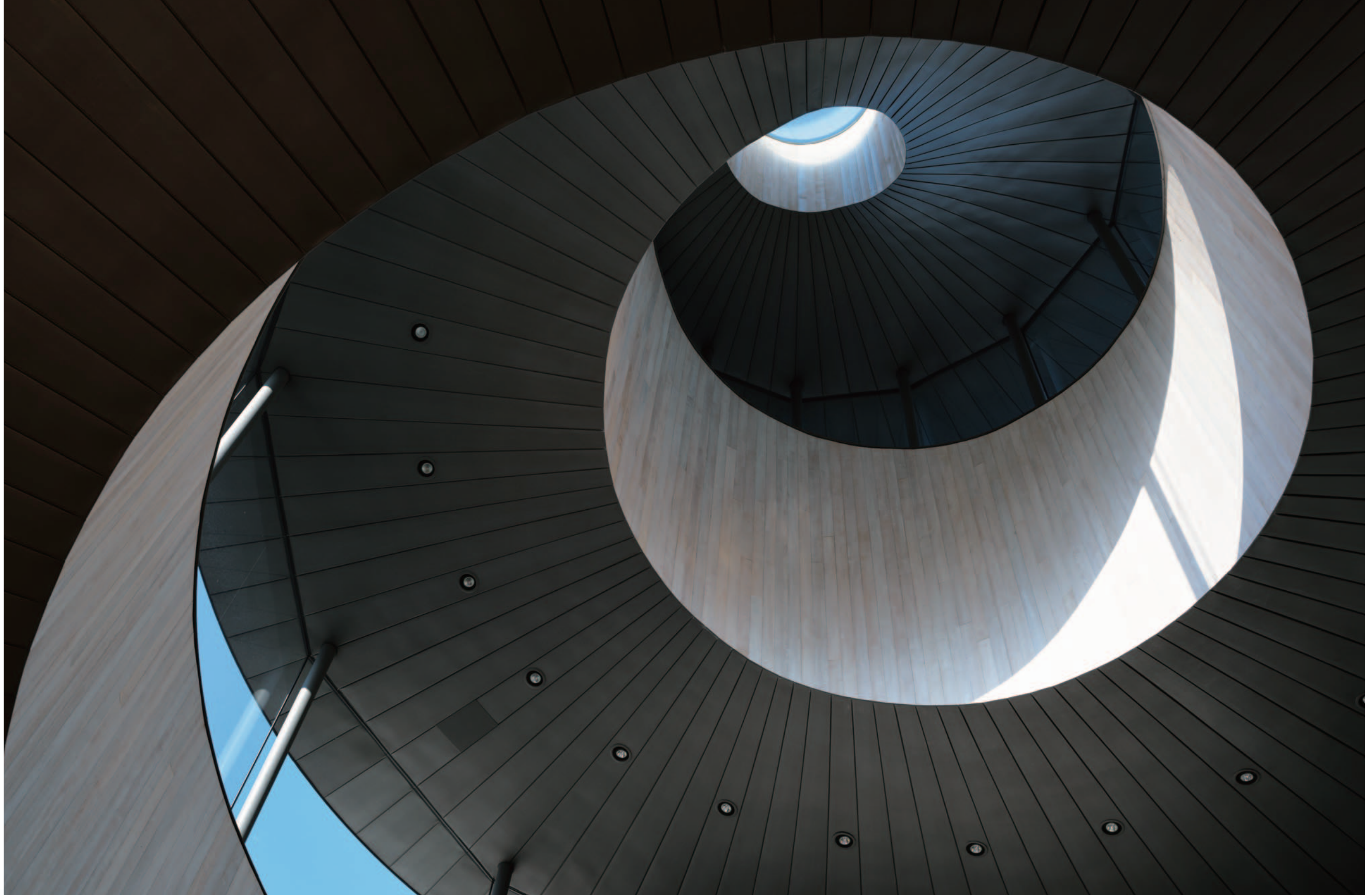
■レンズ構成:9群11枚 ■最短撮影距離:0.25m ■最大撮影倍率:0.21倍 ■質量:約330g ■サイズ:約73mm(最大径)×80.5mm ■フード HB-64<花形>(付属)/ケース CL-0915(付属)

巨匠フランク・ロイド・ライトが設計した「自由学園・明日館(みょうにちかん)」は、幾何学的なガラス窓のデザインなど、フォトジェニックな空間の中に凛とした空気が漂う。ホールを上から見下ろすと、色鮮やかな椅子たちがモザイク模様を描く。鮮やかであり落ち着いた木のぬくもりを感じられる、穏やかでしっとりした時間の広がりや、広角28mmで表現した一枚。やや逆光の光線条件も、ナノクリスタルコートのレンズがクリアでキレイのある画を写し出してくれた。

撮影協力:自由学園・明日館

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:マニュアル、1/125秒、f/4.5 ○ホワイトバランス:オート
○ISO感度:400 ○ピクチャーコントロール:ビビッド

撮影/解説 熊切大輔



AF-S NIKKOR 35mm f/1.4G

収差の発生を抑えた高性能な大口径広角レンズ

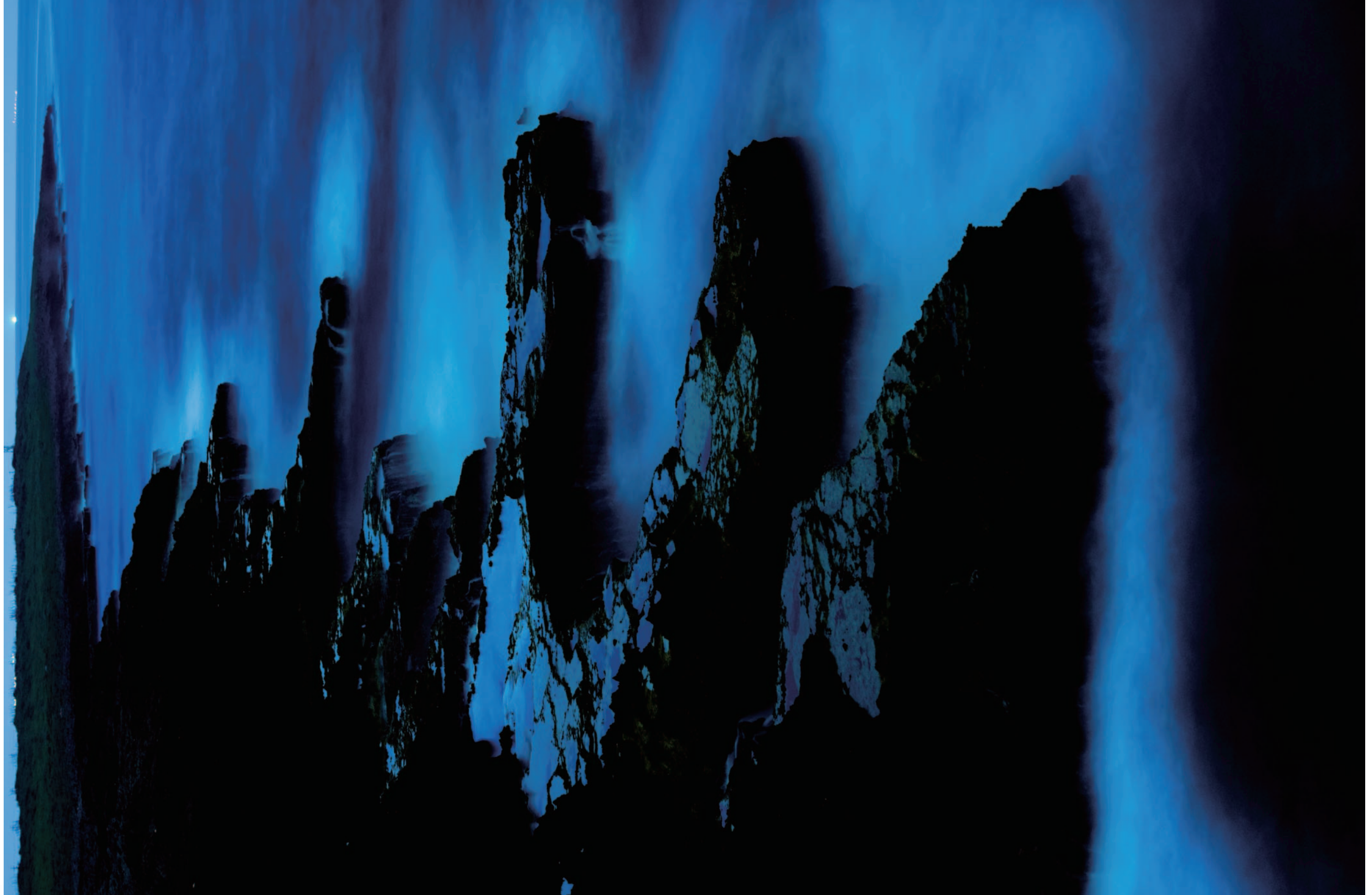
■レンズ構成:7群10枚 ■最短撮影距離:0.3m ■最大撮影倍率:0.19倍 ■質量:約600g ■サイズ:約83mm(最大径)×89.5mm ■フード HB-59<花形>(付属)/ケース CL-1118(付属)

リボンチャペルの内部を見上げる。らせん状の建物内部に入ると、そのダイナミックな構造美に目を奪われ超広角レンズで渦巻き模様を強調したくなるが、そうすると壁面や天井の繊細なディテールが見えてこない。高さ15mの比較的小さな建築物にも関わらず、それ以上の広がりを感じるのはディテールの表情が豊かだからに他ならない。キレが良く上品な描写をするAF-S NIKKOR 35mm f/1.4G、私の期待を裏切らない素晴らしいレンズだ。

撮影/解説 佐藤 振一

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF)
○撮影モード:マニュアル、1/250秒(電子先幕シャッター)、f/5.6
○ホワイトバランス:オート1 ○ISO感度:100 ○ピクチャーコントロール:スタンダード

設計・監理:中村拓志/NAP建築設計事務所
撮影協力:尾道市ペラピスタ境ガ浜「Ribbon Chapel」



AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G

高い点像再現性と自然なボケを両立する大口径標準単焦点レンズ

■レンズ構成:6群9枚 ■最短撮影距離:0.58m ■最大撮影倍率:0.12倍 ■質量:約385g ■サイズ:約85mm(最大径)×70mm ■フード HB-68<花形>(付属)/ケース CL-1015(付属)

日本最南端の有人島、沖縄県の波照間島。雲に隠れた半月の明かりが岩礁を照らし出している。ライブビューの拡大モードを使い、ピントを合わせた。海の向こうには神の住む楽園「ニライカナイ」があるという伝説がある。そんな光景が写るかもしれないと思い、シャッターを切った。明るく収差の少ないレンズとD810の緻密で滑らかなグラデーションの描写があるからこそ、この神秘的なシーンを捉えることができた。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:マニュアル、30秒、f/2.4、-1.0補正
○ホワイトバランス:4000K ○ISO感度:800 ○ピクチャーコントロール:ピビッド

撮影/解説 三好和義



AF-S NIKKOR 85mm f/1.4G

ポートレートの撮影に最適な大口径中望遠レンズ

■レンズ構成:9群10枚 ■最短撮影距離:0.85m ■最大撮影倍率:0.11倍 ■質量:約595g ■サイズ:約86.5mm(最大径)×84mm ■フード HB-55(付属)/ケース CL-1118(付属)

僕の「ポートレート標準レンズ」ともいえる存在のこのレンズは、自然で控えめな圧縮効果と大きく柔らかいボケが最大の魅力。そんな相棒とストロボ撮影で、さまざまな動きを楽しんだ。仕事で使用する大型ストロボは光量が下げづらいが、NDフィルターなどはファインダーを暗くするので使わない。こんな時、ISO64の感度設定は、常に絞りを意識して撮影するプロには本当にありがたい。特にポートレート撮影など、被写界深度を意識した絵作りでは求められる要素だ。明るいレンズは光を問わず開放よりで、僕なら撮りたい。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:マニュアル、1/160秒、f/2.5 ○ホワイトバランス:4350K
○ISO感度:64 ○ピクチャーコントロール:ポートレート

撮影/解説 河野英喜



AF-S NIKKOR 85mm f/1.8G

コンパクトさが魅力の大口径中望遠レンズ

■レンズ構成:9群9枚 ■最短撮影距離:0.8m ■最大撮影倍率:0.12倍 ■質量:約350g ■サイズ:約80mm(最大径)×73mm ■フード HB-62(付属)／ケース CL-1015(付属)

85mmという画角は、ポートレート撮影に最も向いた中望遠レンズである。被写体の向こうに柔らかく広がる、美しいボケ味を楽しむのが魅力。しかし、今回は背後のボケ味を強調せず、被写体の前に空間を作ってみた。画角の広がりだけでなく、画面の奥行きを意識すればレンズ特有の表現が何倍にも広がる。迷路の様な新宿ゴールデン街の雑多な空間で、中望遠レンズの軽い圧縮効果と前ボケを利用して、被写体に目線が集まる構図で撮影。突然現れたネコも、この異空間を演出してくれた。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:絞り優先オート、1/160秒、f/4、-0.5補正
○ホワイトバランス:オート ○ISO感度:400 ○ピクチャーコントロール:スタンダード

撮影／解説 熊切大輔



AF-S NIKKOR 300mm f/2.8G ED VR II

描写力を追求した大口径望遠レンズ

■レンズ構成:8群11枚(+メニスカス保護ガラス1枚) ■最短撮影距離:AF時2.3m、MF時2.2m ■最大撮影倍率:AF時0.15倍、MF時0.16倍 ■質量:約2900g ■サイズ:約124mm(最大径)×267.5mm ■フード HK-30(付属)/ケース CL-L1(付属)

青森県の下北半島で、息をのむような夕景に出会った。標準レンズで風景をメインにねらいたいくなる場面でもあるが、あえてキレイのあるピントとボケ味の美しさが特徴のAF-S NIKKOR 300mm f/2.8G ED VR IIを選択。沈みゆく夕日と輝く水面、そして通過する列車の乗客を窓越しのシルエットとした印象的な作画に挑戦してみた。さまざまな思いで夕日を見つめる乗客たち。車内の空気感さえも鮮明に感じる一枚に仕上がった。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:マニュアル、1/8000秒、f/5.6
○ホワイトバランス:晴天 ○ISO感度:800 ○ピクチャーコントロール:風景

撮影/解説 助川康史



AF-S NIKKOR 800mm f/5.6E FL ED VR

新しい表現を可能にする、現行NIKKOR最長焦点距離の超望遠レンズ

■レンズ構成:13群20枚(+保護ガラス1枚) ■最短撮影距離:AF時5.9m、MF時5.8m ■最大撮影倍率:0.15倍 ■質量:約4590g ■サイズ:約160mm(最大径)×461mm ■専用テレコンバーターAF-S TELECONVERTER TC800-1.25E EDが付属(使用時の焦点距離は1000mm) ■フード HK-38(付属) / ケース CT-801(付属)

迫りくる列車の圧倒的な存在感をあますところなく表現する、これこそ超望遠レンズの真骨頂ではないだろうか。特に、撮影に制約の多い線路際では超望遠800mmという強烈な個性が威力を発揮してくれる。今回はその個性をイメージ的に活かすべく、トワイライトエクスプレスを被写体を選んだ。線路が緩やかにカーブを描く場所、先頭を行く機関車の特徴的な部分を切り取り、客車で奥行き感を出す。重厚感のある機関車を、ネジ一本にいたるまで鮮鋭な描写で力強く描ききることができた。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:マニュアル、1/800秒、f/5.6
○ホワイトバランス:晴天 ○ISO感度:800 ○ピクチャーコントロール:風景

撮影/解説 助川康史





PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D ED

手軽な「アオリ撮影」を実現する広角PC-Eレンズ

■レンズ構成:10群13枚 ■最短撮影距離:0.21m ■最大撮影倍率:0.36倍 ■質量:約730g ■サイズ:約82.5mm (最大径)×108mm ■フード HB-41 (付属) / ケース CL-1120 (付属)

夕暮れの東京・銀座。圧倒的なエネルギーが輝き始める。超広角レンズでこのような俯瞰の構図をとると、垂直線が強く下にすぼまって画面の左右端にいくほどビルが外側に倒れて写る。密集したビル群ではさほど気にならないが、地平線上に一本だけ飛び出したスカイツリーが倒れて写ると、そこが気になって見る人を写真に引き込む力が弱くなってしまうので、スカイツリーが不自然に傾いて見えないようにPC-Eレンズのフォール機能を使って撮影した。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW (NEF) ○撮影モード:絞り優先オート、2.5秒(電子先幕シャッター)、f/8、+0.3補正
○ホワイトバランス:オート1 ○ISO感度:100 ○ピクチャーコントロール:スタンダード

撮影/解説 佐藤 振一



AF-S Micro NIKKOR 60mm f/2.8G ED

クローズアップ撮影以外にも楽しいコンパクトなマイクロレンズ

■レンズ構成:9群12枚 ■最短撮影距離:0.185m ■最大撮影倍率:1.00倍 ■質量:約425g ■サイズ:約73mm(最大径)×89mm ■フード HB-42(付属)/ケース CL-1018(付属)

テーブルフォトなど日常を切り取るスナップ撮影に、一本あると世界が広がるマイクロレンズ。小さい物を近接撮影出来る事が特徴だが、60mmというやや広い画角はそれにとらわれない表現が出来る。造形の美しい江戸切子のガラスにしっかりと寄って描写しながら、それに取り組む職人の真剣な眼差しまで写しこむことによって、ただの接写ではないストーリーを感じさせる写真に仕上げた。ポイントは、軽く絞ることによって表情など背後をボケさせ過ぎないことだ。

撮影協力:江戸切子の店 華硝

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:マニュアル、1/160秒、f/4 ○ホワイトバランス:晴天
○ISO感度:800 ○ピクチャーコントロール:スタンダード

撮影/解説 熊切大輔



AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-ED

シャープな中でも味わいのある描写が魅力のマイクロレンズ

■レンズ構成:12群14枚 ■最短撮影距離:0.314m ■最大撮影倍率:1.00倍 ■質量:約750g ■サイズ:約83mm(最大径)×116mm ■フード HB-38<花形>(付属)/ケース CL-1020(付属)

鳥海山の4合目にある、善神沼のほとりで見つけた小さなキノコたち。緑豊かな森で仲良く寄り添いながら生きる命の尊さに惹かれ、レンズを向けた。手持ち撮影では、レンズの手ブレ補正機能の使用はもちろん、感度自動制御が思いのほか役立つ。ISO 450での撮影となったが、背景のトーンの滑らかさは高ISO感度域のクオリティーが高いD810ならではの。鳥海山の清らかな湧水が育む豊かな森の小さな命を、柔らかく表現することができた。

○カメラ:D810 ○画質モード:14ビットRAW(NEF) ○撮影モード:絞り優先オート、1/125秒、f/4、+0.3補正
○ホワイトバランス:晴天 ○ISO感度:オート(ISO 450) ○ピクチャーコントロール:スタンダード

撮影/解説 萩原 俊哉

9人のフォトグラファーが語る、D810とNIKKORの魅力



菊池 哲男 Tetsuo Kikuchi

作品掲載ページ P10-11、P18-19

立教大学理学部物理学科に在籍の頃から山岳写真に傾倒する。月刊誌「山と溪谷」の表紙撮影や写真集、ガイドブックなど多数出版。ニコンカレッジ講師をはじめさまざまな写真教室、撮影ツアーで活躍中。公益社団法人日本写真家協会(JPS)会員。

D810は、D800Eよりも高感度特性が向上したことが大きな魅力。山の夜景撮影やクライミング中の手持ち撮影に、特に威力を発揮するだろう。実際、手に持ってみるとグリップが深くなり、ハンドリングがさらに良くなったことが実感できた。シャッター音も落ち着いた印象がある。



熊切 大輔 Daisuke Kumakiri

作品掲載ページ P30-31、P38-39、P46-47

東京工芸大学短期大学部を卒業後、日刊ゲンダイ写真部に入社。その後、フリーランスの写真家として独立。ドキュメンタリー、ポートレート、食など幅広い分野で活動中。ニコンカレッジ講師をはじめ、写真講師も多数。カメラグランプリ選考委員。

D810が生み出す高解像かつ鮮やかな描写を、NIKKOR単焦点レンズ群の切れのある表現力が後押ししてくれた。単焦点レンズで様々な被写体を写すためには考え、動き、工夫しなければならない。ある意味これこそスナップ撮影の魅力なのかもしれない。「人」が生み出す空間をこれからも切り取っていきたい。



河野 英喜 Hideki Kono

作品掲載ページ P12-13、P20-21、P28-29、P36-37

独学で写真を学び、人物撮影を中心に活動中。女優やタレントの写真集や写真書籍の撮影は100を超える。これからのテーマは、美しい風景に調和して空気のように溶け込んでいるような人物を絡めた撮影を、より深く追求すること。

D810も手になじみ、肌描写を意識してカスタマイズしたピクチャーコントロールを軸に、今や僕のメインカメラになっている。このカメラにはNIKKORレンズの鮮鋭な描写力が欠かせない。新しいAF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VRのVR(手ブレ補正)機構搭載は、さらにクリアでキレのある表現力のための力強い後押しになると思う。



佐藤 振一 Shinichi Sato

作品掲載ページ P32-33、P44-45

インテリア・建築写真をベースに、超高画素カメラの持つ精緻な描写と独特な透明感を生かした作品制作を続けている。最近では日本庭園の撮影も多く手がける。公益社団法人日本写真家協会(JPS)会員。

D810を使ってみて一番感心したのは、デジタル写真が一番不得意だった「立体感・奥行き感」の表現が豊かになったこと。D810の登場は私のようにリバーサルフィルムを愛用してきた者にとっては大歓迎である。優れたNIKKORレンズとの組み合わせで得られる画質はワンランク上のフォーマットを彷彿とさせる。

(撮影 神村 大介)



助川 康史 Yasufumi Sukegawa

作品掲載ページ P24-25、P40-41、P42-43

鉄道が持つ魅力や鉄道を取りまく風土、そこに生きる人々の美しさを多くの人に伝えることをモットーに、鉄道関係の媒体を中心に奮闘中。(有)マシマレイルウェイ・ピクチャーズ所属。日本鉄道写真家協会(JRPS)理事。

鉄道、特に車両は無機質に思われがちな被写体である。そのため、被写体と撮影者の間にある空気感を表現するよう心がけているが、D810の繊細な描写力とNIKKORレンズの鮮鋭さは、想像以上の感動をもってその空気感を描ききってくれた。D800Eの描写力とAFなどのシステムが、さらに磨き上げられたと言っていだろう。



高砂 淳二 Junji Takasago

作品掲載ページ P06-07、P14-15

自然写真家。1962年、宮城県石巻市生まれ。海の中から生き物、虹、風景、星空まで、80あまりの国々を訪れ、地球全体をフィールドに撮影活動を続けている。著書、写真展とも多数。海の環境NPO法人“OWS”理事。

決して大きくないボディであるにもかかわらず、最高画質の作品を作り上げてくれるD810の存在は本当にうれしい。質の高い画像を求め続けるNIKKORレンズ群の妥協を許さない姿勢と相まって、撮影現場での安心感やその後の大きな印刷までの質の保証を確実に与えてくれるので、とても助かっている。



萩原 俊哉 Toshiya Hagihara

作品掲載ページ P08-09、P48-49

広告代理店でカタログ制作、イベント企画などに携わる。退社後、フリーのカメラマンに転向。浅間山北麓の広大な風景に魅せられて2007年に拠点を移し、2008年に本格的に嬋恋村に移住。自然風景を中心に撮影。写真雑誌などに執筆活動中。

描写力の高いNIKKORレンズとの組み合わせで得られるD810の画質は、D800Eと比べると薄皮一枚はかしたような極上の精細感がある。スロー表現を多用する風景写真にとって、低感度側へのISO感度拡張はもちろん、電子先幕シャッターをはじめとする極限まで抑え込まれた機構ブレ低減はとても心強い。



星野 佑佳 Yuka Hoshino

作品掲載ページ P22-23、P26-27

京都市生まれのフォトエッセイスト。2000年、夢だった海外放浪の撮影旅へ。帰国後は、自然風景を求めて旅をしながら日本全国を撮影。その傍ら、地元京都の風景や歳時記も撮影。企業・テレビ局のホームページや写真誌などでフォトエッセイを連載中。

D810で撮影した画像の機構ブレがないクリアさは、三脚使用で幅広いシャッター速度を使う風景写真における最優先事項です。常用でより低感度が使えるようになり、画質の深みが増し、水風景などの撮影の幅もぐんと広がりました。ピクチャーコントロールの微調整により、撮影現場で作品をほぼイメージ通りに完成できるのも魅力です。



三好 和義 Kazuyoshi Miyoshi

作品掲載ページ P16-17、P34-35

17歳の時、当時最年少でニコンサロンで個展を開催して以来、写真家を目指す。大学在学中にプロ活動を始め、卒業と同時に株式会社楽園を設立。17歳の時に、初めて出版した写真集「RAKUEN」で木村伊兵衛賞を最年少で受賞。ニッコールクラブ顧問。

D810の描写力を楽しんでいる。今まで撮れなかった、よりリアルな水の質感やグラデーションの描写力を実感。高感度撮影時においても、VRレンズとの組み合わせにより、夜間撮影の際、手持ちでも撮影が可能になった。また、ノイズが格段に低減されたことにも満足している。



NIKKOR.com <http://nikkor.com/ja/>

歴史やテクノロジーなど、多彩な視点からNIKKORの世界をイメージ豊かに展開しているスペシャルコンテンツです。



レンズナレッジ <http://www.nikon-image.com/enjoy/lensknowledge/>

レンズの基礎知識から選び方、お手入れ方法まで、レンズに関する知識を体験しながら楽しく学べます。



NIKKOR LENS GUIDE <http://www.nikon-image.com/products/lens/lens-app/>

レンズの基礎知識からNIKKORレンズの全ラインナップまで、交換レンズをまるごと知ることができるアプリです。初心者の方から、よりステップアップしたい方まで、多様にお楽しみいただけます。

写真家×NIKKOR
私のNIKKOR

私のNIKKOR http://www.nikon-image.com/sp/my_nikkor/

気鋭のプロ写真家たちがテーマとなるNIKKORレンズで撮影した作品を、ご紹介しています。



NIKON IMAGE SPACE <http://nikonimagespace.com>

「NIKON IMAGE SPACE」は、撮影を楽しむすべてのひとのための無料で利用可能なオンライン画像共有・保存サービスです。



ニコン フォトコンテスト 2014-2015 <http://www.nikon-photocontest.com>

Nikon College

Nikon College (ニコンカレッジ) <http://www.nikon-image.com/nikoncollege/>

「ニコン カレッジ」はすべての写真ファンのための写真教室です。初心者から経験者まで、レベルや目的に合わせて写真が学べる多彩な講座を用意。あなたの受講をお待ちしています。



nikkor club (ニッコールクラブ) <http://www.nikon-image.com/activity/nikkor/>

ニッコールクラブは、ニコン製品をご愛用いただいている方に、写真をより深く楽しんでいただくためのクラブです。ニコンカメラおよびニッコールレンズをご愛用の方ならどなたでもご入会いただけます。

ニコン ホームページ **www.nikon-image.com**



この印刷物は2015年12月10日現在のものです。
製品の外観、仕様、希望小売価格などは変更することがあります。
なお、掲載してある製品の色は印刷インキの関係上、実際とは多少異なることがあります。

株式会社 **ニコン**
株式会社 **ニコン イメージング ジャパン**



Z1684-001